

【議会報告会】

○ 市道路線の認定基準について、その認定の基準とは何か。

⇒議員 本件は全て宅地開発に伴う宅地内の道路の市道路線認定である。次回以降はより市民にわかりやすいように説明を心掛ける。

○ 四日市中央競技場の改修に係る契約議案の説明について、今後このような議案説明を行うのであれば、もう少し丁寧に説明してほしい。

⇒議員 ご意見として承り、次回以降はより市民にわかりやすいように説明を心掛ける。

○ 四日市中央競技場の改修に係る契約について、8億9千万円という数字は何を表しているのか。

⇒議員 入札の際に設定する基準価格に消費税を加えた金額である。

【シティ・ミーティング】

《テーマ：高齢者を取り巻く交通の現状について》

○ 親戚のおじがセニアカーに乗っているが、聴力が低下していることもあり、後方からの自動車の接近に気が付きにくく危険である。また、居住しているところが道路幅員の狭い道路であり、おじが乗るセニアカーが車道を塞いでしまうので、後続の自動車の渋滞を生じさせているが、自動車のドライバーをイラつかさせ、交通事故を誘発しないか心配である。

○ 加齢とともに反射神経などの体の機能が衰えてきていることから、友人と早く自動ブレーキ等の安全運転支援機能が備わった自動車に乗り換えようと話しているところであるが、市としても、そのような自動車の普及率を高めるために、対象となる自動車に乗り換える際に補助をしてはどうか。

○ 運転免許の返納を検討することがあるが、運転免許を返納した後の自家用車に頼らない生活を考えると、生活に支障を来すため躊躇する。笹川では高齢者を対象とした送迎のボランティアがあるようだが、このような制度を維持していくには、市の支援が必要ではないか。川島にも「ちょボラかわしま」というボランティア制度があるが、

一番のネックは事故を起こした際の保険である。

- 近所の人を病院へ連れて行くことがあるが、事故のリスクがあるため心配している。また、自宅の近くにはバス停があるものの、坂道が多く、高齢者には大変な環境である。
- 公共交通がない地域の人が買い物や通院に困らないように、タクシーを利用する際の補助を設けてはどうか。
- バスをより利用してもらえるように、行き先やバス路線、運行中のバスの現在地などがわかるようなバス停の表示にしてはどうか。
- 出身地の広島では電光掲示板にバス路線図と運行中のバスの現在地が表示されており、一目でわかるので利用しやすい。
- 高齢者の免許返納を促すのであれば、返納することで得られる市としての優遇策があってもいいのではないか。
- 川島駅から近鉄四日市駅を経由して名古屋駅まで行くことがあるが、乗り継ぎが少し不便だと感じる。利便性が向上すれば、もう少し利用者も増えるのではないか。
- 乗降客数が基準を満たさないので、川島駅にはエレベーターが設置されておらず、利便性という観点からは課題である。また、近鉄湯の山線と三交バスの路線が競合しているものもあり、近鉄湯の山線の存続を考えるのであれば、三交バスは近鉄四日市駅まで向かうのではなく、近鉄湯の山沿線の各駅までを結ぶことで、利用者の増加を図っていくことも必要ではないか。
- 運転免許を返納するにしても、食事の面であれば弁当の配達やスーパーの宅配サービスなどを利用すれば良いが、通院の場合は代替手段が限られているため、運転免許の返納が進まない要因の1つではないか。
- バスでJR四日市駅まで向かい、そこから近鉄に乗り換えるため、近鉄四日市駅とJR四日市駅がもう少し距離が短いと、利用者にとっては乗り継ぎが楽になる。
- 自宅から大学までバスで通学しているが、バスの本数が少なく、乗る時間が合わないとタクシーを利用するしかないため、バスの本数を増やしてほしい。
- 市内の大手事業所の従業員の通勤手段はタクシーを利用することが多いと思うが、やはりバスの本数が少ないからではないだろうか。

- 南伊勢町等の他市町の事例を参考にし、本市でもコミュニティバスの導入を検討してはどうか。
- 他市町では自動車のアクセルとブレーキの踏み間違い防止装置に対する補助があるが、本市でも補助することで、踏み間違い防止装置の普及を促してはどうか。